



特別研究員－DCの就職状況調査結果について

DCの「常勤の研究職」への就職状況

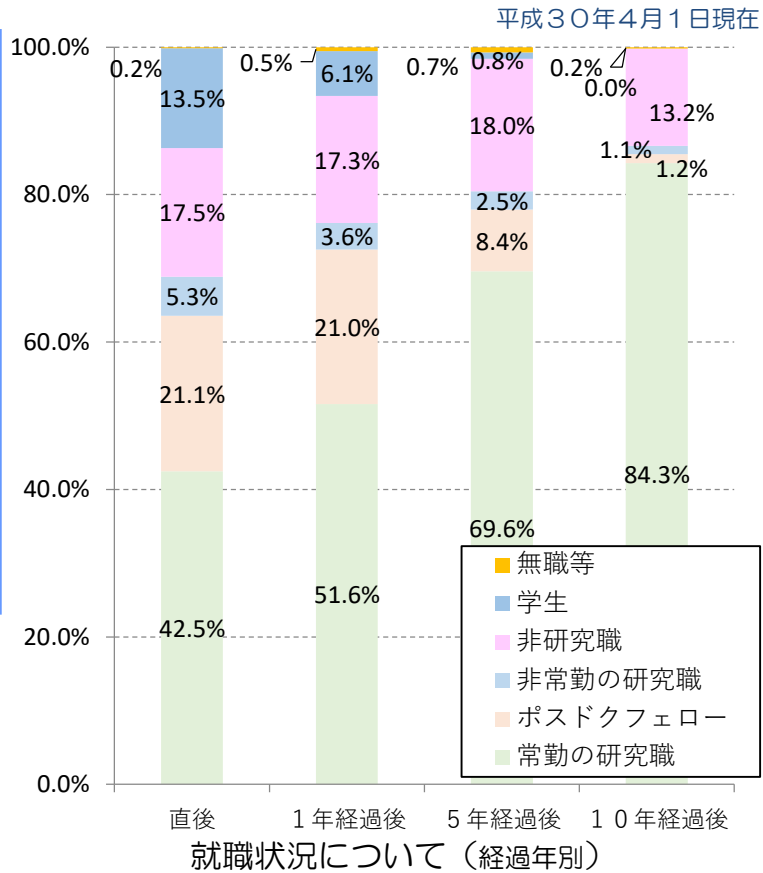
直後：「常勤の研究職・ポスドクフェロー」
(平成29年度終了者)：63.6%

1年経過後：「常勤の研究職・ポスドクフェロー」
(平成28年度終了者)：72.6%

5年経過後：「常勤の研究職」
(平成24年度終了者)：69.6%

10年経過後：「常勤の研究職」
(平成19年度終了者)：84.3%

※ 割合は不明者等を除いて算出



《 調査結果より 》

日本学術振興会特別研究員-DCは、5年経過後調査では、69.6%が「常勤の研究職」に就いており、我が国の研究者の養成・確保の中核的な役割を果たしている。

特別研究員制度とは

優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。

大学院博士課程在学者で、将来研究者となることを目指す者を「特別研究員－DC」に採用し、2～3年間フェローシップを支給。

